

「土砂災害について考える」

宮崎県 木城町立木城小学校 5年 石井 有希葉

テレビ番組や新聞などで、よく、自然災害のニュースや記事を見る。土砂災害や水害などで、たくさんの被害が出ることもある。でも、自然災害って、何だろう。私は、土砂災害について、調べてみることにした。

梅雨前線による梅雨や台風は、広いはんに大雨をふらせることがあり、それによって、こう水や土砂くずれの被害が出ることもあるらしい。最近では、竜巻やはげしい雷雨によって、ごくせまいはんに、短い時間に集中して雨がふることが増え、大きな被害も増えているという。日本は、山地が多く、川は短く流れが急な地形や、梅雨や台風があるので、土砂災害の被害が出やすいことも分かった。

日本で起きた主な自然災害に、2014年に、広島県で起きた土砂災害がある。この土砂災害で、死者・ゆくえ不明者が、77名も出たらしい。

「土砂災害によって、たくさんの方が命を落としたり、ゆくえ不明になったりして、たくさんの被害が出ているんだな。自分自身は大丈夫だった方も、心にきずを負ってしまった方がいるんじゃないか。」

と考え、身の回りで土砂災害が起きることは、すごくこわいことだと思った。

そして、土砂災害などの自然災害に備えるために、被害を防ぐ取り組みをしているところがある。国や都道府県、市町村は、ふだんから、減災のための努力をしている。川の水が大雨などで増えても、まちや農地などへ流れこまないように高い堤防がつくられているのも、その一つである。他にも、高潮や津波を防ぐための防潮堤や、たくさんの山の土や砂、岩と水がまじって流れだす土石流を防ぐための砂防ダムなどがつくられている。自然災害が発生したときに備えて、ひなん路の整備やひなん場所を決めたり、水や食料などを備えたりもしている。

こういった減災のための努力や、災害が発生したときへの備えにより、安心してすごせたり、災害時にも安全な場所へひなんできたりする。

では、自然災害が起きたときのために、私たちが出来ることは何だろう。

土砂災害などの自然災害は、いつ起こるか分からない。なので、

「日ごろの備えが大切だな。」

と私は思った。日ごろ備えておけば、もし、身の回りで災害が起きたときに、すぐにひなんしたりできるからだ。

まず必要なのは、水と食料だと分かった。最低3日分、できれば1週間分の水と食料を備えておくとうれしい。

その家庭によって、必要な物が変わる事もある。乳幼児がいる、ねたきりの高齢者などの要介者がいるなど、各家庭の事情に応じた備えが必要になる。キャンプ時などに使うアウトドア用品は、自然の中で使うことを想定しているため、機能性も高く、災害時にとても役に立つらしい。

ふだんから必要な物を備えたり、学校でのひなん訓練を行ったりして、もしもの事態に備えていきたいと思った。災害により大きな被害が出たときは、周りの人と助け合い、乗り越えていきたいと思った。